



I—太陽と月 (天空の明暗)

日付	日出 (星座)		日没		日付	夜半の月齢	月出 (星座)		月没	
	時分	(ふたご)	時分	(かに)			日	時分	時分	時分
1	4:46	(ふたご)	19:15	(かに)	1	11.8	16:13	(てんびん)	1:24	
6	4:48	"	19:14	"	2	12.8	17:10	(さそり)	2:17	
11	4:51	"	19:13	"	3	13.8	18:3	(へびつかひ)	3:6	
16	4:54	"	19:11	"	4	14.8	18:52	(いて)	4:2	
21	4:58	(かに)	19:8	"	5	15.8	19:37	"	5:3	
26	5:1	"	19:5	"	6	16.8	20:17	(やぎ)	6:7	
31	5:5	"	19:1	"	7	17.8	20:54	(みづがめ)	7:13	
					8	18.8	21:28	"	8:19	
					9	19.8	21:59	(うを)	9:26	
					10	20.8	22:32	"	10:33	
					11	21.8	23:7	"	11:40	
					12	22.8	23:45	(ひつじ)	12:48	
					13	23.8	—	"	13:56	
					14	24.8	0:28	"	15:4	
					15	25.8	1:27	(をうし)	16:9	
					16	26.8	2:12	"	17:9	
					17	27.8	3:13	"	18:1	
					18	28.8	4:16	(ふたご)	18:46	
					19	0.4	5:21	"	19:25	
					20	1.4	6:23	(かに)	20:0	
					21	2.4	7:24	"	20:30	
					22	3.4	8:22	(し)	20:58	
					23	4.4	9:20	(ろくぶんぎ)	21:25	
					24	5.4	10:16	(し)	21:52	
					25	6.4	11:12	(をとめ)	22:21	
					26	7.4	12:7	"	22:54	
					27	8.4	13:4	"	23:30	
					28	9.4	14:1	(てんびん)	—	
					29	10.4	14:58	"	0:10	
					30	11.4	15:52	(さそり)	0:57	
					31	12.4	16:42	(へびつかひ)	1:49	

II—天象

日	時	天象
3	3	木(北20°)と月と合
3		地球が遠日點
4		土星が停留
5	2	部分月食
10	10	土(南8°)と月と合
16	2	水(南0.02°)と火と合
24		水星が外合
30	8	木(北2°)と月と合

満月 7月5日 2時35分 下弦 7月12日 1時28分
 新月 7月19日 0時19分 上弦 7月26日 21時36分

主な流星群

日付	赤緯	赤緯	附近の星	性質
6月—8月	333°	+28°	ベガス座	速、痕短
6月—8月	313°	+24°	小狐座	速、痕短
中旬	317°	+31°	白鳥座	速、痕短
29日	339°	-11°	水瓶座	速、痕短
15日	15°	+49°	ペルセウス座	速、痕短
31日	32°	+54°	ペルセウス座	速、痕短

遊 星 界 (7月)

水星 牡牛星座の東部から蟹星座の東部まで、東へ東へと移動する星。位置は暁の東の空。朝寝坊には縁はないが、真冬の星星と共に見られるのであるから、上旬の好期を、眼をこすりながらでも見ては如何？ オリオンと馱者との間に負1等星として輝く。月末はダメ。やがて宵の星となる。

金星 あまりに太陽と仲が好すぎる星。しかし、位置は宵に廻つて来た。これから段段見易くなるからたのしみがある。今年は涼臺から見られないのが惜しい。

火星 まだ太陽に近いから見られない。位置は双子星座。

木星 この頃親しまれる唯一の遊星である。日没と共に南天の銀河の中に燦として輝く。赤いアンタレス星とならび、光度負2等星。殆んど停止状態。

土星 暁の星とはいふものの早く見られるやうになつた。微かに細い輪の存在をたのしむとして待機する天文愛好家には、木星を西天に送るとこの星がいとしまれる。位置は水瓶星座と魚星座との境界、春分點に近い。

天王星 羊星座にある暁の星。光度も6等以下。土星よりもおそく上る。まだ観望の好期ではない。

海王星 宵の星。位置は獅子星座。太陽に近づいてゐるから、観望は今のうち。光度7.8等。

冥王星 双子星座にある。光度15等級。

星座 西に近づいた春宵の傑作レグルス、アクトウルとスピカの直角三角形は名残りおしいが、地上の暑を忘れさせる夏の星座も素晴らしい。

銀河は東天に高く、南北に流れて、鷲座のアルタイルと琴座のヴェイガとが、其の兩岸に美しいロマンスを囁き、一羽の白鳥が頸を長く延し乍ら、軽く飛んで行く。

南には「鶏血を滴らせた色」にアンタレスを主星とした蝸座がわだかまり、天頂には牛、冠、天頂近くにはヘルクレス、蛇遣ひの巨人が煌く。